

## 「私たちが選挙に関わる意味」

甲斐 彰真

皆さんは選挙についてどのように考えていますか？私は正直、大学生の頃までは選挙について何の興味もなくただただ選挙に行けばいいというぐらいにしかなかったことはありませんでした。

「なぜ若い人まで選挙に行かなければならないのか？」「自分1人が選挙に行かずに投票をしなくても結果は変わらないのではないか？」と考えることが多かったのを今でも覚えています。

しかし、その考え方は自分の中で少しずつ変わってきています。

私は、2年前から保育士として働いています。社会人となり一人暮らしをする中で、税金や社会保険料、物価の上昇、賃金や雇用の安定など、日常生活の多くが政治と深く結びついていることを実感しました。学生の時よりも、政治と向き合う機会、考えることが増えたことで選挙に対する意識も少しずつ変わってきているのではないかと思います。

また、意識が変わるきっかけとなった出来事があります。それは「選挙事務」です。私は、衆議院議員総選挙で選挙事務の受付業務を担当しました。

勝手なイメージですが、投票に来る方は少ないのではないかと感じていました。しかし、結果は76パーセントの投票率で、ほとんどの方が投票していたことに驚きました。

地域の方々が、真剣に考え投票する姿を見て、私も責任を持って選挙に取り組んでいかなければならないと改めて考えるようになりました。

日本では投票率の低下、とりわけ若年層の投票率の低さが長年の課題となっています。今の若い人たちが選挙へ行かないのは、以前の私のように選挙に興味や関心が無かったり、政治や選挙の仕組みが分かりにくいなどといった理由が挙げられるのではないかと考えています。

「一票では何も変わらない」、「政治は難しくて分からない」といった理由で投票に行かない人も少なくないと思います。しかし、投票しないという選択を続けるということは、結果的に若い人たちの意見が政治に反映されにくくなる状況を生み出してしまうことに繋がるのではないのでしょうか。このことを改善していくには若い人たちの選挙に対する興味関心を引き出してあげる必要があると思います。

実際に行われている取り組みの中で私が1番影響があるのではないかと考えているのは、模擬選挙です。模擬選挙とは、実際に選挙の投票と同じ形で学生な

どが選挙を体験するといった取り組みの事で、選挙権の有無に関わらず、選挙がどのようなものなのか知ることができると思います。

選挙権を持ってないときから少しでも選挙について触れることで、いざ選挙に行くとなった際の不安が少しでも無くなり、若い人たちの選挙に対する意識も変わってくるのではないかと考えました。

私はこの2年間、社会人として過ごしていく中で選挙について見つめなおすことができました。どうしたらこれからの若い人たちが選挙について考えることができるのか、また、私自身もこれからの未来のために私自身ができることについて考えながら選挙や様々な活動にも積極的に取り組んでいきます。

ご清聴ありがとうございました。